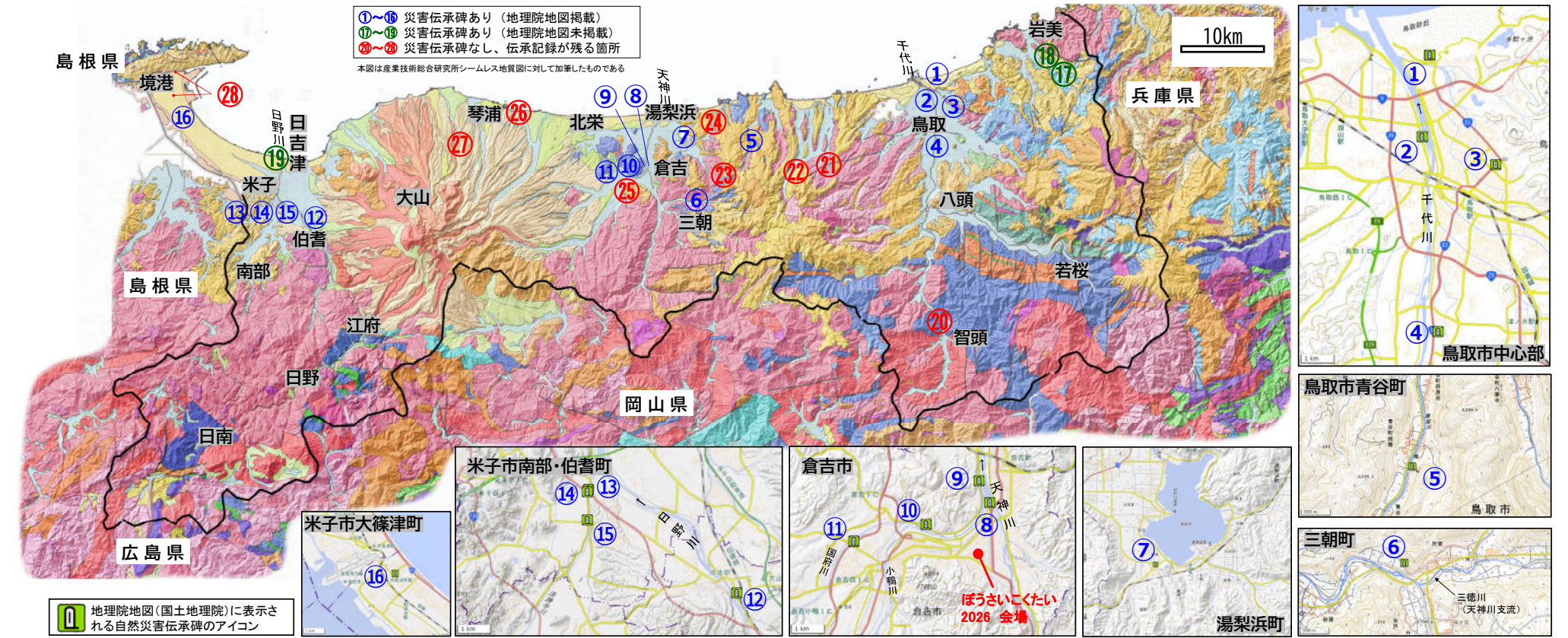


1 鳥取県で近年に発生した自然災害の伝承記録



鳥取県には19箇所の自然災害伝承碑(①～⑱)と9箇所の伝承記録(㉑～㉒)がある

洪水の伝承が14箇所と最も多く、土砂災害、地震、津波の順に伝承が確認されている。
千代川(鳥取市ほか)、天神川水系(倉吉市ほか)、日野川(米子市ほか)という大きな河川沿いに伝承が集中しており、自然災害が繰り返されていることがわかる。

No.	碑名、伝承の名称	災害名	伝承碑	建立年	所在地	地震	津波	洪水	高潮	土砂災害	伝承内容
①	溺死海会塔	洪水 (旧暦1795年8月29日)	●	1801	鳥取市浜坂二丁目			○			大雨で袋川があふれ大洪水が起こり、約650人が亡くなった。この地域は昔から何度も洪水の被害を受けてきた場所である。
②	千代川改修之碑	洪水 (1918年9月14日)	●	1974	鳥取市安長			○			台風で千代川が大洪水となり、鳥取平野の多くが水没した。死者30人、家屋の被害702戸、浸水13,186戸という大きな災害になった。
③	追悼と記憶の碑 鳥取大地震	鳥取地震 (1943年9月10日)	●	2023	鳥取市尚徳町	○					鳥取地方をマグニチュード7.2の大地震が襲い、死者1,210人、住居の全半壊13,132棟という大被害が出た。80年を機に追悼の碑が建てられた。
④	移轉記念碑	洪水 (1918年9月14日)	●	1926	鳥取市国安(上国安公民館)			○			台風による千代川の大洪水で、国安地区は堤防が決壊し、復旧工事のため108戸の人々が移転を余儀なくされた。
⑤	水災死者供養塔	土砂災害 (1893年10月14日)	●	1895	鳥取市青谷町紙屋(弥勒寺境内)					○	暴風雨で夜に山が崩れ、この山崩れによって41人が命を落とした。
⑥	片柴村水死十五人墓	三朝町増野の山崩れ (1762年9月3日)	●	不明	東伯郡三朝町大字片柴			○		○	大雨で三朝町片柴増野で山崩れが起こり、数戸の家が被害を受け、圧死者も出た。碑には洪水にちなんで「水死」と刻まれている。
⑦	道路・河川改修記念碑	室戸台風 (1934年9月20日)	●	1941	東伯郡湯梨浜町大字長和田			○			東郷池の水位が上がり、温泉街が床上まで浸水した。子ども4人が亡くなり、周辺地域で多くの家屋が被害を受けた。
⑧	天神川改修60周年記念碑	室戸台風 (1934年9月20日～21日)	●	1994	倉吉市見日町			○			室戸台風は天神川流域で猛威をふるい、堤防決壊や家屋流失が続出し、鳥取県内で81人の死者・行方不明者が出た。
⑨	今津堰碑	洪水(1858年、1893年、1900年)	●	1910	倉吉市巖城			○			1858年の洪水で今津堰の一部が壊れ、その後も1893年、1900年と洪水被害が続いた。
⑩	北條用水記念碑	室戸台風 (1934年9月20日～21日)	●	1938	倉吉市巖城			○			倉吉市などの田畑を支える北条用水の堤が壊れた。碑にはその後の復旧工事の様子が記されている。
⑪	社村耕地整理記念之碑	室戸台風 (1934年9月20日～21日)	●	1943	倉吉市国府			○			大雨で国府川の堤防が崩れ、辺り一面が湖のようになった。水が引いた後、田んぼに砂や石がたまった。
⑫	蚊屋井手記念碑	天文19年大洪水 (1550年9月12日)	●	不明	西伯郡伯耆町岸本			○			大洪水で日野川の流れが変わり、村が分かれたり流れたりした。その後も1702年など何度も洪水が発生した。
⑬	兼久堤修築碑	洪水(1886年9月、1893年10月、1894年8月・9月)	●	1896	米子市兼久			○			旧尚徳村は1886年、1893年、1894年と3回の大洪水にあい、この経験から1896年に大規模な堤防が完成した。
⑭	兼久堤防改修記念碑	洪水 (1918年9月13日)	●	1921	米子市兼久			○			1896年に完成した頑丈な堤防だったが、1918年の台風で約110m決壊し、旧米子町の約4千戸が浸水する被害となった。
⑮	福光巡査殉職慰霊塔	室戸台風 (1934年9月21日)	●	1935	米子市榎原1455			○			川が増水し、孤立した一家を助けようとした巡査が濁流にのまれて亡くなった。流域では多くの浸水被害も出た。
⑯	和田御崎神社社号碑	鳥取県西部地震 (2000年10月6日)	●	2002	米子市大篠津町(和田御崎神社)	○					米子市は震度5強を記録し、負傷者16人、全壊住家103棟の被害が出た。倒壊した鳥居の笠石を使い碑が作られた。
⑰	供養塔	鳥取地震 (1943年9月10日)	●	1948	岩美郡岩美町荒金	○					地震で鉦山の堰堤が壊れ、鉦山の泥が住宅などを一瞬でうずめた。鉦山労働者や住民、朝鮮半島出身者を含め65人が犠牲になった。
⑱	県営小田川地区公害防除特別土地改良事業竣工記念	鳥取地震 (1943年9月10日)	●	1995	岩美郡岩美町岩常	○					地震で鉦山の堰堤が壊れ、下流に鉦毒が広がった。その後10年間かけて水田の改良や整備が行われ、地域の環境が良くなった。
⑲	深田惣左衛門宗真顕彰碑	洪水(1591年、1635年、1701～1702年)	●	1998	米子市上福原			○			深田惣左衛門宗真という人物が、日野川の洪水を防ぐため藩に治水を訴え、堤防を築いて米子の町を水害から守った功績が伝えられている。
㉑	崩壊と千代川せき止め決壊	2004年台風21号		-	智頭町市瀬					○	豪雨で採石場跡地の斜面が大規模に崩れ、土砂が千代川をせき止めて天然のダムができた。家屋浸水など大きな被害が出た。
㉒	1943年地表地震断層、水路のずれ	鳥取地震 (1943年9月10日)		-	鳥取市鹿野町末用	○					地表の断層が鹿野町に残っている。水路が横にずれ、地面が隆起した様子は今も見られ、天然記念物になっている。
㉓	「明治山」生成	1893年豪雨		-	鳥取市鹿野町古仏谷					○	鹿野町古仏谷で山崩れが起こり、崩れた土砂が積もって「明治山」という山ができた。
㉔	鳥取地震崩壊	鳥取地震 (1943年9月10日)		-	湯梨浜町別所					○	別所の和谷橋付近で山崩れ、土砂は道路と谷川を越えて水田を埋めた。
㉕	1893年豪雨崩壊	1893年豪雨		-	湯梨浜町原					○	原南方の山が崩れ、土砂が池に突入。宇野山が崩壊したとされている。
㉖	室戸台風崩壊	室戸台風(1934年9月20日～21日)		-	倉吉市仲ノ町					○	激しい雨で倉吉市の打吹山の斜面が崩れ、土砂が流れ下って勝入寺の建物を壊した。
㉗	安政地震時の津波	安政東海・南海地震の津波 (1854年)		-	琴浦町逢東		○				津波が琴浦町逢東に押し寄せ、住民は道具を使って必死に防いだ。地震の揺れは一週間以上続いたと伝えられている。
㉘	1934年室戸台風崩壊、せき止め決壊	室戸台風(1934年9月20日～21日)		-	琴浦町大父					○	山崩れで川がせき止められ、その後決壊して大熊集落を襲い、数戸の家が流された。
㉙	地震津波浸水	庄内沖の地震による津波 (1833年)		-	境港市大港神社、余子神社		○				鳥取県境港にも影響が及んだ。神社の境内まで海水が入り、一時混乱したが後に落ち着いた。
合計						5	2	14	0	8	

2 伝承からみえてくる 鳥取の災害の特徴と先人の教え

自然災害伝承碑をみにいこう

自然災害伝承碑（単に伝承碑ともいう）は、過去に発生した災害を後世に伝えるため、先人が当時の様子や教訓などを石碑などに刻んで残したものです。

過去に災害が発生した場所はいくつかの方法で知ることができます。地質学の専門家は、地形や地質を調べることで手がかりを見つけます。専門知識のない一般の人でも、各地に残る**古い災害の記録**や**自然災害伝承碑**を読むことで、その土地で起きた災害の歴史を知ることができます。



千代川改修之碑
（鳥取市）



社村耕地整理記念
之碑（倉吉市）
整形石材・漢文



深田惣左衛門宗真顕彰碑
（米子市）
そばに説明文碑あり

■ 伝承碑を見ればどんな災害が発生したかわかる（鳥取市青谷町弥勒寺「水災死者供養塔」）



水災死者供養塔（前面）



（側面）

明治癸巳秋
大水○而我傍動出
強風○暴雨連日不息
洪水○漲溢○○担
至十月十四日夜初更
西山○鳴動而崩潰數百尋塵
死者○突四十有之○名々矣
志士○悼○命之死者
植碑○弔亡者之靈
維時明治乙未麦

表記	西暦	意味
明治癸巳	1893年	災害が起きた年
明治乙未	1896年	碑を建てた年

※○は判読できず。
青字は判読が不確かな文字
赤字は強調、断定等の文字かと推測

■現代語訳
明治二六年（癸巳）の秋、大洪水が発生し、我が地域（の周囲）でも（山が）動き出し（て崩れ）ました。中でも、大字紙屋村（の被害）が最も悲惨（甚だ）なものでした。中では、強風と激しい暴雨が何日も降り続いて止まず、洪水は溢れかえり、谷を埋め尽くして激しく押し寄せました。十月十四日の夜、宵の口（午後八時頃）になって、西の山が地鳴りを立てて大崩壊し、数百尋（すうひゃくじん…数百メートル）に及ぶ非常に高い崖から土砂や塵が崩れ落ちました。（この災害による）死者は、実に四十余名にのぼりました。その（亡くなった方々の）名前は、まことに（悲しいものです）。志ある人々（地元の人々）は、この（天命・不慮の）災害によって亡くなった人々の死を深く悼（いた）み、碑（ひ）を建てて、亡くなった方々の御霊（みたま）を弔（なぐさ）め（とむら）うことにしました。明治二八年（乙未）の麦の収穫期（初夏）のことです。



碑文の内容から生成AIが再現した災害発生時の状況（イメージ）



■ 伝承碑の位置を探そう

国土院が公開するWebサイト「地理院地図」では、地図上に自然災害伝承碑の場所を表示でき、**どの場所でどのような災害が発生したかを簡単に知ることができます**。地域の図書館などにはもっと詳しい情報が埋もれているかも。



■ 実際に行ってみよう

伝承碑とともに地形・地質など現地の状況を確認し、避難のイメージづくりをします。漢文で書かれている碑文もたくさんあり、**AIを活用して解読**する方法も有効です。



■ もっと詳しく調べてみよう

日本応用地質学会では学会員が全国の自然災害伝承碑を現地調査し、災害や被害の状況、発生原因などを考察し公表しています。自然災害のことをくわしく知りたい場合は、ぜひ活用ください。



調査票のQRコード



地理院地図



自然災害伝承碑調査票（日本応用地質学会）

鳥取県を襲った大津波（1833年、1854年）

伝承②⑧ 太平洋沿岸域に比べて津波被害の伝承が少ない鳥取県沿岸部にも、江戸時代後期の2回の津波災害の伝承（1833年と1854年）が残っています。

出典「第2回鳥取県津波対策検討委員会 文献資料について」鳥取県、2011年。

■ 鳥取県での被害状況

「第2回鳥取県津波対策検討委員会 文献資料について」より

1833（天保3）年津波：境港の余子大明神（現在の大港神社）の境内が浸水

1854（嘉永7）年津波：逢束村（現在の琴浦町）中条川付近の家々と観音寺門前の石垣に達した

■ 伝承内容から生成AIが再現した災害発生時の状況（イメージ）



1833年庄内沖の地震による津波

地震の揺れによる被害が秋田・山形・新潟で生じており、同時に津波が日本海沿岸を襲いました。鳥取県内では、境港市の沿岸部にある大港神社（標高1m）の境内が浸水したとの伝承が残されています（伝承⑧「地震津波浸水」）。

この津波は1983（昭和58）年に発生した日本海中部地震（マグニチュード=7.7）に似ています。沿海州（ロシア沿岸）や隠岐諸島、日本海中部の大和堆という浅瀬などで多重反射した津波が襲来したと考えられます。



1854年安政東海・南海地震の津波

この時の津波の伝承が鳥取県中部の琴浦町に残されており、海岸域にある中条川付近の家々と、観音寺というお寺（標高5m）付近まで浸水したと伝わっています（伝承⑨「安政地震時の津波」）。

この地震は四国沖の南海トラフ（太平洋）が震源ですが、そこで発生した津波が九州の端を回り日本海に達したとは考えにくいです。地震の強い揺れのため、日本海沿岸域で局地的な海底地すべりが起こり、それに起因した津波が琴浦町に達した、という可能性が考えられます。

■ この災害から得られる教訓

- 【知る】 **日本海沿岸域でも津波来襲**はたびたび起こっていた（1983年日本海中部地震もある）
- 【注意】 遠く離れた**南海トラフ巨大地震**時も要注意 … 海底地すべりが起こると津波が発生
- 【行動】 過去の津波災害を知り、海岸沿いの**低地の標高（特に5m以下）**を日ごろから意識する

“新しい山”をつくった1893（明治26）年の台風

伝承⑫ 明治年間最大の水害とも、鳥取県下台風史上最大の被害が発生したともいわれている。古仏谷では山稜が崩壊し、その土石が耕地に転落し高さ七〇m余り周囲七六三mの山ができた。明治山といわれている。【鹿野町誌 下巻より】

■ 鳥取県での被害状況

中国地方の自然災害記録年表 | 中国建設弘済会アーカイブスより

死者219人、行方不明109人、負傷408人、住家全壊2,446戸、半壊5,861戸、流失2,252戸、浸水18,192戸



かつて斜面が崩れた痕跡が周辺にたくさんあり、同様の災害が起こりやすいこと、今後も注意が必要ながわかります。

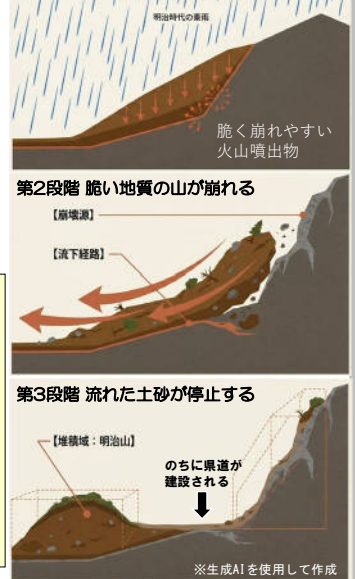
1893年台風 そのほかの災害伝承

- ◆ 伝承碑⑤ 水災死者供養塔（鳥取市青谷町 弥勒寺）
山崩れで41人死亡。特殊な地質に起因か。
- ◆ 伝承碑⑨ 今津堰碑（倉吉市 天神川・小鴨川合流点）
堰が決壊し、広い範囲で浸水した。
- ◆ 伝承碑⑬ 兼久堤修築碑（米子市 法勝寺川）
何度も大洪水が発生。堤防が改修された。



漢文で刻まれた伝承碑⑨
今津堰碑

■ 「明治山」はこうやってできた



※生成AIを使用して作成

■ この災害から得られる教訓

- 【知る】 **雨量**だけでなく**地形・地質**で被害の大きさは変わる
- 【注意】 地形・地質を知る … **川の合流点／脆弱な地質／急斜面**
- 【行動】 過去の災害を知り、**危なそうな場所**を日ごろから意識する

3 伝承からみえてくる 鳥取の災害の特徴と先人の教え

災害事例3 1918(大正7)年9月の台風による豪雨災害

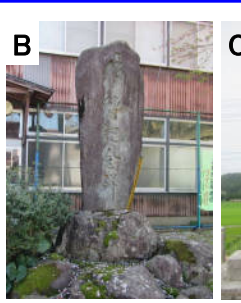
1918年9月12～15日、台風に伴う豪雨により鳥取県内の多くの河川が氾濫し、県内各地で甚大な洪水被害が発生しました。

■鳥取県での被害状況 千代川：国土交通省HP「千代川の主な水害」 天神川：国土交通省中国地方整備局倉吉河川国道事務所「70年のあゆみ」 日野川：国土交通省HP「日野川の主な水害」
千代川流域：死者 30名、負傷 24名、家屋流失・全壊・半壊 702棟、床上・床下浸水 13,186棟
天神川流域：死者 19名、浸水 5,764棟、出口橋の西方決壊、倉吉町内半分浸水、竹田川筋決壊440箇所
日野川流域：兼久堤防が約110m決壊、流失家屋 2戸、半壊家屋 1戸、浸水家屋 4,000戸、深さ7～8尺

A



B



C



災害を伝える石碑

A 伝承碑② 千代川改修之碑（鳥取市）
1918年の大洪水後に開始された千代川改修事業の記念碑。

B 伝承碑④ 移轉記念碑（鳥取市）
1918年に千代川堤防が決壊した国安地区では、復旧工事に伴い108戸の人々が移転したことを記録した記念碑。

C 伝承碑④ 兼久堤防改修記念碑（米子市）
改修工事が完了していた兼久堤防が1918年豪雨で決壊したため、再び改修工事を行ったことを記念する石碑。

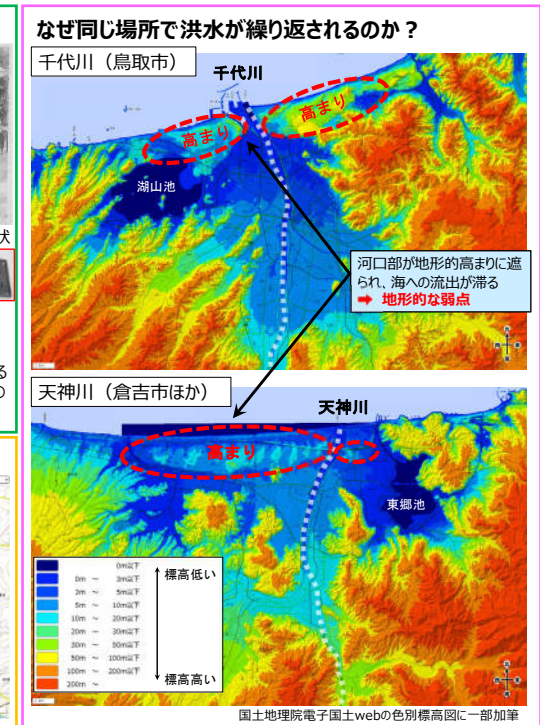
洪水発生時の写真記録

（鳥取市歴史博物館「鳥取大災害史」より）



なぜ同じ場所で洪水が繰り返されるのか？

千代川（鳥取市）



昔と今の千代川の比較

（「今昔マップ on the web」より）



- この災害から得られる教訓
- 【知る】鳥取県内の主要河川では昔から大雨の時に洪水が繰り返し発生
 - 【注意】山に降った雨が平野部に流れ込む。山地部でのゲリラ豪雨後には川が増水する
 - 【行動】洪水ハザードマップを見て、自分の家を確認しよう。近くの避難所・避難経路も確認しておこう

災害事例5 1943(昭和18)年鳥取地震 街の壊滅と鹿野断層

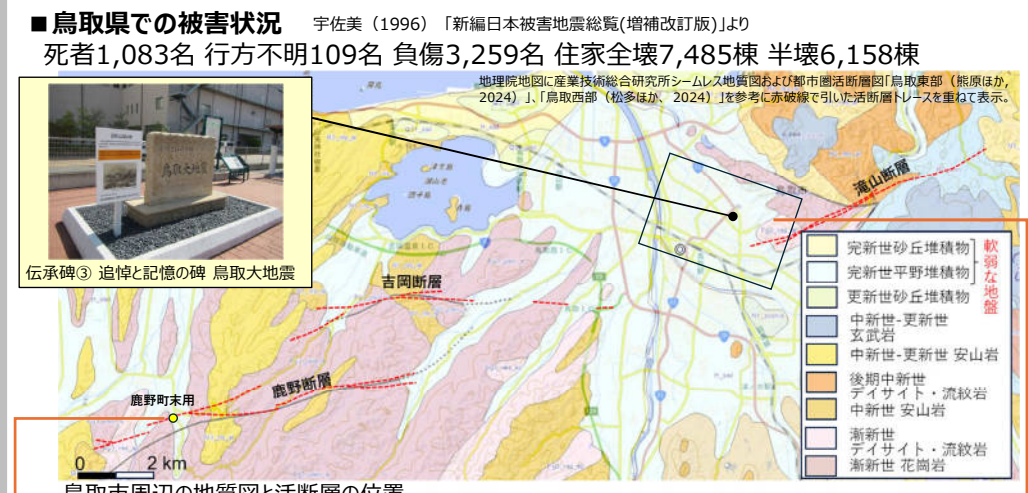
伝承② 鹿野断層と吉岡断層の2つの活断層に沿って最大右横ずれ変位約150cmの地表地震断層が地震で出現した。この地震に伴う被害は、主に鳥取平野の地盤の弱い場所に集中して発生した。1943年当時の震度階級の最大となる震度6を記録した（マグニチュード7.2）。

■鳥取県での被害状況

宇佐美（1996）「新編日本被害地震総覧（増補改訂版）」より
死者1,083名 行方不明109名 負傷3,259名 住家全壊7,485棟 半壊6,158棟

地理院地図に産業技術総合研究所シームレス地質図および都市圏活断層図「鳥取東部（熊原ほか、2024）」、「鳥取西部（松多ほか、2024）」を参考に赤破線で引いた活断層トレスを重ねて表示。

鳥取市周辺の地質図と活断層の位置



鳥取市鹿野町末用の水路のずれ（鳥取県天然記念物）



鳥取市街地周辺の倒壊家屋範囲と被災状況



鳥取県周辺で複数の活断層が発見されている

政府地質調査研究推進本部「中国地域の活断層の長期評価」より



- この災害から得られる教訓
- 【知る】活断層は繰り返し活動し大きな地震を生じさせる。軟弱地盤地域は大きな被害が生じやすい
 - 【注意】地形・地質を知る … 活断層の位置、軟弱地盤の場所
 - 【行動】公表されている地震被害想定を確認し、防災用品の準備や避難経路の確認をする

災害事例4 1934(昭和9)年室戸台風

倉吉周辺の大水害と土砂災害

室戸台風は記録的な強さで知られる台風です。京阪神では多くの家屋が壊れました。遠く離れた倉吉市でも、豪雨によって大きな水害と土砂災害が起きました。この災害の記憶は、川の改修工事記念碑などにより今も伝えられています。

■倉吉町（当時）だけでも、これだけの被害が出ました

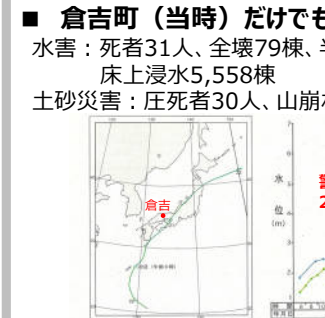
水害：死者31人、全壊79棟、半壊205棟、流失78棟、床上浸水5,558棟
土砂災害：圧死者30人、山崩れ514か所※1

倉吉の雨量：9月19日101mm、翌20日340mm→2日間で441mm

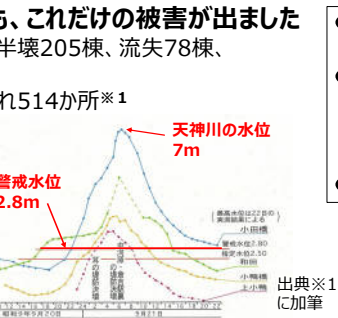
天神川の水位：警戒水位2.8mを大きく超え7mに達しました。支流の小鴨川、国府川も含め大きな水害となった

山崩れも多数発生した

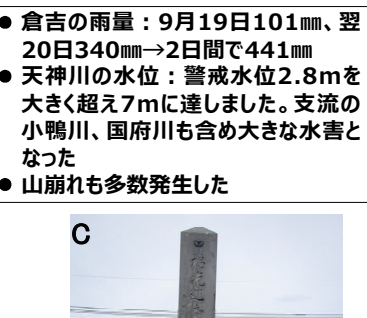
A



B



C



A 小鴨川（天神川支流）の用水堰復旧を伝える伝承碑⑩「北條用水記念碑」

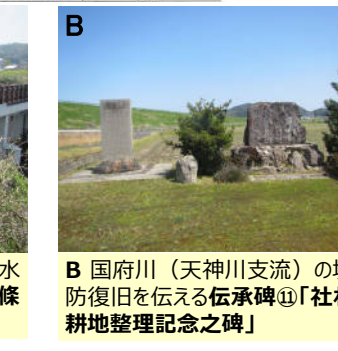
B 国府川（天神川支流）の堤防復旧を伝える伝承碑⑩「社村耕地整理記念碑」

C 米子市 法勝寺川（日野川支流）で増水した川に取り残された一家を助けようとした28歳巡査の伝承碑⑩「福光巡査殉職慰霊塔」

D



E



D 倉吉市仲ノ町（現在の市役所付近）の勝入寺の裏山で起きた土砂崩れ・土石流による建物の被害※1

E 倉吉の観光地「白壁土蔵群」の平常時の様子と、室戸台風当時の浸水の様子（倉吉博物館所蔵）※1

※1（出典）国土交通省中国地方整備局倉吉河川国道事務所（2006）：室戸台風災害の実録（語り継ぐ水害の脅威）

- この災害から得られる教訓
- 【知る】1日300mmを超える雨は、大きな災害につながるおそれがある
 - 【注意】台風は上陸地点から離れた場所にも、大雨や川が増水をもたらすことがある
 - 【行動】伝承碑や言い伝え、ハザードマップなどで、お住まい周辺の危険な場所を確認しよう

災害事例6 2000(平成12)年鳥取県西部地震

伝承碑⑩（米子市大篠津町 和田御崎神社社号碑より）この社号碑は平成十二年十月の鳥取県西部地震を記念し倒壊したこの鳥居の笠石を用いて永く後世に伝えるものです 平成十四年四月吉日

■鳥取県での被害状況

平成12年（2000年）鳥取県西部地震「震災誌」より 消防庁確定報：平成14年10月10日
負傷者141名 住家全壊394棟 半壊2,494棟 一部破損14,134棟

写真1 境港市竹内工業団地 液状化に伴う噴砂



写真2 境港市昭和町 3号岸壁の変状



■伝承碑⑩ 和田御崎神社社号碑



写真3 日野郡日野町 花崗岩急斜面の崩壊



※写真1～3は「鳥取県西部地震 災害調査報告書（2001年5月25日）、鳥根大学 鳥取県西部地震災害調査団」より引用

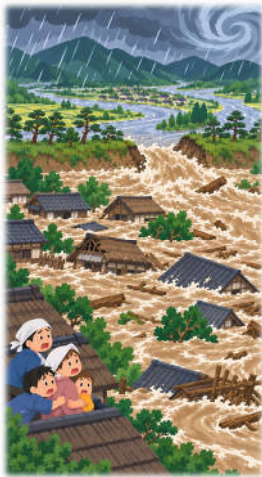
- 災害の特徴と今後の備え
- 「隠れた活断層」への警戒
 - 液状化対策と設計評価
 - 室内安全対策（家具固定）
- この災害から得られる教訓
- 【知る】どこでも地震は起きることを知る…活断層が知られていない地域でも大地震は起こりうる
 - 【注意】地盤を知る … 沿岸地域の盛土・造成地／山間部急傾斜地
 - 【行動】情報収集と日頃の備え…ハザードマップ・避難経路の確認／室内安全対策

4 鳥取県の災害史から考える防災への提言

伝承からみえてくる鳥取の過去の災害

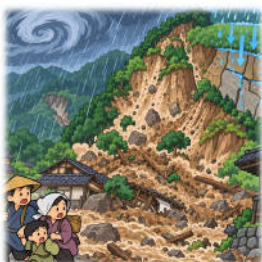
■ 洪水・河川災害

- 千代川・天神川・日野川などの主要河川は、過去に何度も堤防決壊や氾濫を繰り返し、同じ地域が被災している
- 河川の合流部やかつて川が流れた跡地（旧河道）、海岸に近い砂地の高まり（砂丘・浜堤など）で河口が狭くなっている場所は、洪水時に川の水が集まりやすく注意が必要
- 室戸台風（1934年）は四国・京阪神への被害が有名だが、鳥取県でも記録的豪雨により多数の河川で堤防決壊が発生した
- 後背湿地や砂丘・浜堤の内陸側など、地形的に水はけが悪い土地にも集落（街）は形成され、水害リスクは今も残る



■ 土砂災害（崖崩れ、土石流）

- 山間部では花崗岩の風化や、岩盤の割れ目など、脆い地質を原因とした崩壊が繰り返し発生している
- 一度崩れた斜面は、同じ場所や周辺で再び崩壊する可能性がある
- 台風による短時間の強い雨で急激に地下水位が上昇すると、崩壊の引き金となる



■ 地震

- 1943年鳥取地震では死者1000人超の大災害が発生した。鹿野町の水路には今も横ずれの痕跡が残り、活断層の存在を伝えている
- 鳥取地震は建物倒壊だけでなく、鉱害などの二次災害も引き起こした
- 2000年鳥取県西部地震では山間部の斜面崩壊に加え、沿岸部での液状化、側方流動等の地盤被害が多くみられた
- 発生当時未知の断層が震源となった



■ 津波

- 1833年の地震では境港・日本海沿岸にも津波が到達した記録があり、鳥取県も津波と無縁ではない

私たちにもできる 自然災害への備えと準備

見過ごされてきた石碑が知っている、
鳥取で起きた過去の災害の記憶。
過去を知れば、未来を守ることができる。

- 自分の住む地域に伝承碑や災害記録がないか、自治体・図書館・インターネットで確認しよう



- 自然災害伝承碑は「昔の災害の記録装置」。地域の伝承碑を訪ね、災害の恐ろしさや身の守り方を家族や子どもたちに伝えていこう

- ハザードマップや自然災害伝承碑の位置から危険な場所を確認し、避難場所・経路を事前に考えよう



- 鳥取県では河川の氾濫が繰り返し発生している。「昔の川筋」や「低地・後背湿地」に住んでいる場合は、洪水リスクを再確認しよう

- かつて一度でも崩れた斜面・崖に近い場所では、繰り返し災害が起こると考えて備えよう

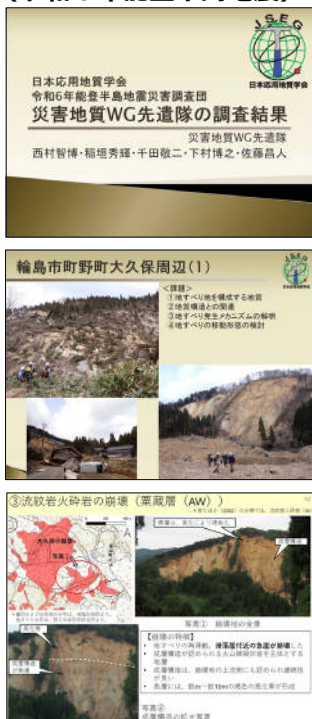


- 台風接近時や線状降水帯予測が発表された場合は、短時間の強い雨が土砂災害の引き金になることを意識し、早めの避難を心がけよう

日本応用地質学会の活動紹介

私たち（一社）日本応用地質学会は、地震や豪雨などの自然災害が起きた際に、専門家からなる災害調査団を迅速に派遣し、被害の状況や地形・地質の特徴を調べ、その結果を広く公開しています。調査で得られた知見は、地域の防災に役立つよう、講演会や教材づくりなどの形でわかりやすく発信されています。こうした活動を通じて、災害のしくみを理解し、安全な暮らしにつながる情報を社会へ届けています。

■ 調査団による災害調査と公表（令和6年能登半島地震）



■ 各地での防災アウトリーチ活動



市民を対象とした災害調査報告会（広島市中区）

土石流の被災地の中高生を対象とした現地出前授業（広島市安佐南区）

小学生を対象とした防災まち歩き、防災マップ作製授業（岡山県倉敷市真備町）

■ 防災絵本「にげて！」（日本語版）、「Run away!」（英語版）の共同出版



【えほんの内容】
むかし、あぶ山には大きなヘビが住んでいて、村へおきてきては悪さをしていました。あるとき侍がヘビを退治し、流れた血が沼（池）になったという伝説が今も残っています。
あるはげしい雨の日、幼稚園児のしゅんとひろちゃんのおきょうだいはこの伝説を思い出し、ヘビが来ることを怖がって泣きました。実はこの伝説は昔の土石流を伝えるお話でした。おかあさんは二人の様子を見て避難を決意し、ご近所の人々に声掛けて避難所へ向かいます。その夜、本当に土石流が発生しましたが、みんなが避難していたので無事でした。ふたりは、昔のお話を覚えてよかったと思うのでした。

【出版の経緯】
「にげて！」は平成26年広島豪雨災害の被災地（広島市安佐南区阿武山一帯）に伝わる「蛇王池伝説」に基づいた内容の防災絵本です。自らの学校も被災したAICJ中学・高等学校の生徒たちが、自分たちだけでなく市民の防災意識を高めることを目的に作成に取り組みました。
学校と日本応用地質学会中国四国支部が力をあわせ、平成29年に共同出版しました。

【展開】
この本を活用して、AICJ中学・高校の生徒たちは近隣の保育園に読み聞かせを行いました。市民が防災に対して自らアクションを起こした事例です。
防災意識の考え方は世界共通です。令和5年には「にげて！」の英語版となる「Run away!」を出版しました。

■ 参考文献

今村隆正（2020）鳥取県の土砂災害の歴史。水利科学，373，pp.160-173。
宇佐美龍夫（1996）新編日本被害地震総覧（増補改訂版），東京大学出版会，493p。
宇佐美龍夫（2004）最新版 日本被害地震総覧416-2001，東京大学出版会。
岡田篤正（2002）山陰地方の活断層の諸特徴，活断層研究，22，pp.17-32。
加藤碩一・遠藤祐二（1999）石の俗称辞典，愛智出版。
国土交通省中国地方整備局倉吉河川国道事務所（2006）室戸台風災害の実録（語り継ぐ水害の脅威）。「山陰地方の斜面災害」編集委員会（2013）山陰地方の斜面災害，日本地すべり学会。
鹿野町誌編集委員会（1995）鹿野町誌，下巻，1086p。
地震調査研究推進本部（2017）「鹿野－吉岡断層の長期評価」。
鳥取県津波対策検討委員会（2011）文献資料について，鳥取県。
徳安浩明（2011）19世紀における伯耆国日野川流域の鉄穴流しとともなう水害と対応，人文地理第63巻，第5号，pp.1-21。
西尾雅明（2006）市瀬地区の地すべり崩落とその対策工，鳥取河川国道事務所HP。
西田良平・黒川泰・赤木三郎（1993）1943年鳥取地震に伴う吉岡・鹿野断層とその周辺部の地変について，鳥取大学教養部紀要，27，別冊。

畠山久尚（1966）気象災害，共立出版，pp.324-326。
松井儀平（1926）遠東村史之美談。
松多信尚・岡田篤正・後藤秀昭・小山拓志（2024）1:25,000 活断層図「鳥取西部」，国土地理院。
米子市立図書館（2005）ふるさと米子探検隊第5号，川とくらの巻。
米子市立図書館（2020）ふるさと米子探検隊第22号，米子の災害と防災の巻。
米子市立図書館（2022）ふるさと米子探検隊第24号，箕敷屋の歴史を知ろう。

■ 作成（一社）日本応用地質学会 中国四国支部 ぼうさいにたい実行委員会

西山 賢一（実行委員長，徳島大学大学院 社会産業理工学研究部）
加藤 弘徳（事務局，㈱荒谷建設コンサルタンツ）
木村 一成（ケイオ）
野々村 敦子（香川大学創造工学部）
大坂 理（㈱日本海技術コンサルタンツ）
田村 栄治（㈱ナイル）
浜崎 晃（㈱日本海技術コンサルタンツ）
濱本 拓志（大日本タイヤコンサルタンツ㈱）
向古 秀樹（鳥根大学総合理工学部）